

5 研修成果 (感想・今後の取り組み等)

別紙 2

① 「地域防災力を向上させるために」

近年は、水温が上がると、温度があがって、夏は大雨、冬は大雪となる。

自然災害が続発する自然環境時代。高齢者比率が急増する高齢社会では、高齢者が犠牲者の8割以上を占める時代。水害も震災も、直接死も災害関連死も、高齢者である。地域の高齢化、地縁の喪失から、コミュニティも崩壊。外国人が激増する国際化という背景がある。

災害に強い地域・まち・市民・企業の「防災」とは、次の3点に取り組むことである。

④ 被害を出さない・・・予防力(事前防災)⇒ 貴重品を持って2階で寝る。

家具の固定。ブロック塀は3段まで。

⑤ 被害を広げない・・・対応力(減災対応) ⇒ BCP

⑥ 被害から復興する・・・復興力(復旧・復興) ⇒ 事前に考えておく。

災害ボランティアセンターを準備しておく。

$$\frac{\boxed{\text{予防力}} + \boxed{\text{対応力}} + \boxed{\text{復興力}}}{\boxed{\text{被害想定}}} = \boxed{\text{防災力}}$$

上記の防災力を高めるために、今考えることが大切である。

災害は、起こってしまうと考えることができない。

② 地方議員に最も期待する「防災の取組10カ条」とは

① (前)地方議員は、公人である前に住民として「防災達人」たれ。

「防災達人テスト(木造住宅編)(マンション編)」やってみよう!

② (前)災害時の活動は、平時以下でも、平時以上でもない。

③ (前)学校防災の強化にもっと目を向け、地域を支える「人材育成」

④ (前)地域防災計画、災害活動マニュアル、BCPを十分理解する。

⑤ (前後)事前防災も発災対応も、住民目線・女性目線を忘れない。

⑥ (後)発災7日間は、地域住民として、地域で活動する。

⑦ (前)議員としての活動は、議会として「会派連携」が基本。

⑧ (後)被災後の対応は、「公平・平等・公正」が原則。

⑨ (後)職員も被災しているので、行政を支援し、住民を支援する。

⑩ (後)復旧・復興計画策定からは、「復興後の地域の維持管理」を念頭に、執行部(行政)に対する「チェック機能」を。

③ 行政に不可欠な、危機管理に必要な能力について～二つの「そうぞう力」と一つ「決断力」～

●未災の事態に対するリスク管理には、二つの「そうぞう力」

①想像力・・・顕在化するであろう「リスク」を想像する能力 IMAGINATION

②創造力・・・想像されるリスクに対して、最適な予防策・対応策を創造(工夫)する能力
CREATION

●発生した危機事態(クライシス)に対し、的確かつ適時に判断し、実効するには、一つの「けつだん力」

③決断力・・・空振りを恐れない能力

「空振りは許されるが、見逃しは許されない クライシス管理」

④ 鍵谷 一 氏は、体操しよう！と声をかけ、参加者に手遊び体操をしてくれた。体操しながら、「庁舎の中、大丈夫？小・中学校で、とめてないものあるんじゃない？議長室の議長の写真大丈夫？」と言いながら、体操はだんだん難しくなっていく。参加者がついていけず、会場から笑い声が聞こえると、「やることはわかっててもね。慣れてないことはできないんだよ。だからね、もし、災害が起こっても、60点できたら、100点だと思って。やったことないんだから。防災の研修でね。今日も講師から同じこと言われたと思ったら、それはね、とても大事なことだと思って。」と、秋田県のあたたかみのあるイントネーションで、講義を始めた。

⑤ 福祉と災害について

福祉・・・ケアプランに災害時対応を盛り込むことが必要である。

学校・・・学校の先生に防災に取り組んでもらえれば、地域力があがる。

災害前によくよく考える。事前復興を考えることが、まちづくりにつながる。

⑥ 本当の敵は、「正常化バイアス」

人は、なぜ宝くじを買って、防災に備えないのか？「正常化バイアス」という癖を治さないといけない。それには、防災教育、防災訓練が必要である。

台風⇒停電、断水といった、自分自身にスイッチを入れること⇒ 危機管理を上手にする。

東日本大震災の「岩手県大槌町の災害対応」と、「宮城県東松島市議会議員の行動」の演習を行った。大槌町は、町長をはじめ、136名中33名の職員が亡くなった。急遽、指揮官となった総務部長の言葉に「防災計画は136人全員が活着している前提でしか作っていないのだから。体験やノウハウを持った人がたちがいなくなったことも大きかった。特に技術者が10名亡くなっている。例えば、水道管がどこにあるかもわからなかった。」というインタビューに胸がつまった。

東松島市議会は、議会の最終日に地震が発生。直後に閉会宣言し、議員は帰宅。22名中、1名が死亡、1名が流され凍傷で入院。議会としては、議員の安否確認後、何もできなかった。それぞれ地元で、避難所運営や、情報収集の活動をした。4月5日市役所にやっと20名が集まった。議長は毎日災害対策本部につめていた。執行部を信頼し、議長に情報を伝えた。災害時に、議員がやってはいけないことは、「スタンドプレー、リーダーを超えてはだめ。分をわきまえること」だと元航空自衛官の議員は語っていた。

東かがわ市役所も、東かがわ市議会においても、全員が無事であるとは限らない。誰が指揮官になっても、市民を守る事前の準備と、訓練が必要である。早急に議場における防災訓練を行いたい。またBCPを月に一度議会で確認しあうべきと考える。社会教育主事任用資格を持ち合わせているので、岩手県大槌町の災害対応と、宮城県東松島市議会議員の行動のワークショップを、市議会で開催できる機会を頂ければ幸いである。

東かがわ市議会が想像力や、創造力をもつために、そして災害時に決断力を発揮するためには、何度も協議し、何度も訓練をすることが重要と考える。また、私たちが、本気で、継続的に防災訓練に取り組むことが、東かがわ市民の「正常化バイアス」をとく鍵となると考える。市民、そして職員全員が無事であることは、市議会の願いであると同時に、使命であると考え。議長をリーダーに率先して訓練をしてまいりたい。